

# 森林防疫ニュース

(109)  
VOL. 8  
No. 7  
(No. 88)

編集 林野庁

発行 全国森林病虫獣害防除協会

1959. 7. 1

主要森林害虫等発生分布図  
(本号情報欄記載分)



## 目次

### 解説

森林植物を害する虫瘿昆虫

— 双翅類 — ..... 神谷 一男.. 2

### 観察

ストロブマツ造林地に

ナラタケ病現わる..... 佐保 春芳.. 4

人体を刺すマツザイシバンムシの

寄生蜂クロアリガタバチについて.. 有賀 好文.. 4

4~6月頃スギ林内で採集される

タマバエ科の幼虫..... 加藤 銈治.. 6

木酢液の採取方法について..... 今野 敏雄.. 7

情報..... 8

刊行物紹介..... 16

雑録..... 16

## 解 説

## 森林植物を害する虫癭昆虫

## — 双 翅 類 —

神 谷 一 男

筆者は本誌8巻3号に、樹木を害する虫癭昆虫のうちタマバチ類について、記したが、ここでは主に森林植物に虫癭を作る双翅類について述べる。

双翅類のうち植物に虫癭を作るものはタマバチ科 *Cecidomyiidae* とミバエ科 *Trypetidae* とであつて、前者についてはこれまでよく知られているが、後者については余り知られていない。

(1) マツバノタマバチ *Cecidomyia pinicola* TAKAGI

松の針葉の基部に幼虫が寄生し瘤を作るので針葉の生長が止まり、後枯れて落葉するので木は次第に衰弱する。アカマツ、クロマツに寄生し、特に隠蔽地のアカマツの害が激しい。

本種は最初佐々木忠次郎博士が愛知県鳳来寺の松山で被害を認め「松の五倍子蠅」と名付けられたものである。本邦各地に産する。

本種は幼虫又は蛹で発生地の落葉中か表土の浅いところで越冬し、翌春成虫が羽化し、雌虫は松の嫩葉に産卵する。孵化した幼虫は針葉の基部の軟かい部分から組織内に穿入しそこに寄生するので、この部分は次第に肥大して虫癭になる。寄生を受けた針葉は伸長が止まるので直ぐわかる。

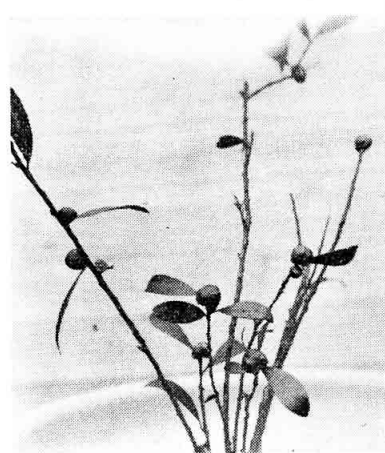
幼虫は老熟すると虫癭を脱出して地上に落ちるが、その時期は秋から冬にかけてである。

(2) スギタマバチ *Contarinia inouyei* MANI

最初九州で発見されたが、その後本邦各地に分布することが知られ、近年問題になつた杉の害虫である。

成虫は杉の新芽に産卵し、孵化した幼虫は葉肉内に穿入して食害するので、この部分は次第に肥大し虫癭を生じ、芽の伸長は止まり秋になるとこの芽は枯れてしまう。被害木は直ぐ枯れてしまうようなことはないが、芽の伸長が止まるので木の生育が遅れて次第に衰弱する。

年1回の発生で、土中で越冬した老熟幼虫は3月頃蛹化し、4月頃成虫が羽化して地上に現われる。雌虫は杉の芽が伸長を始める頃、芽の先端に止まつて針葉に数卵ずつ産付する。4月下旬から5月頃にかけて幼虫が孵化し、直ちに葉肉内に穿



第I図 イヌツゲタマバチによる虫癭

孔する。5月上旬になると幼虫の穿孔した部分は肥大して虫癭になる。6月中下旬になると虫癭も完全なものになり芽の伸長は止まる。夏の間に被害葉は大体緑色を呈しているが、8月中下旬には多少茶色を帯び、その後次第に褐色を増し、秋になると大部分褐色になつて枯死する。虫癭内の幼虫は体長1.5~1.8mmに達し、老熟すると橙黄色になり、被害葉が枯死する頃穿入孔から脱出して地上に落下する。幼虫は落下後間もなく地下浅い部分に潜入し、絹糸様の糸を出し楕円形の繭を営みその中で越冬する。

(3) イヌツゲタマバチ *Paraspondylia sasakii* MONZEN

イヌツゲの葉腋の芽に寄生し、これが肥大して直径6~8mmのほぼ球形の虫癭を作る。内部には縦の円筒状の虫室が数個から十数個あり、この中に幼虫が入っている。

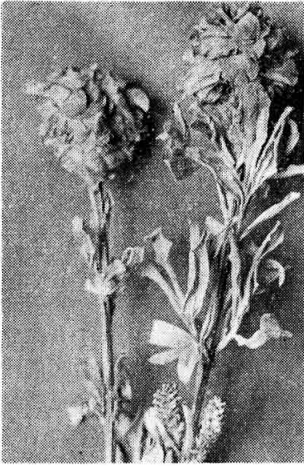
虫癭内で幼虫態で越冬し、翌年6月中旬成虫が羽化脱出する。この虫癭は始め緑色であるが、成虫の脱出後褐色になつて枯死するので芽の伸長が止まる。

(4) ヤナギシントメタマバチ

*Rhabdophaga rosaria* LOEW.

本種はカワヤナギ、イヌコリヤナギなどの新芽の生長点に寄生し、ここに虫癭を生じ芽の伸長を止めて害をなす。

年1回発生し虫癭内にて幼虫態で越冬し、翌年2、3月頃蛹化し、成虫は4月頃出現する。羽化後



第II図 ヤナギシントメ  
タマバエの虫瘻

間もなく交尾産卵を始める。雌は柳が開舒を始める頃、枝芽の末端に1粒つつ産卵する。卵期間は1週間位で、孵化した幼虫は直ちに新芽の中に穿入し加害を始めると、次第に虫瘻を形成する。

先づ芽の生長が止まり、幅広い小葉を叢生し、恰もバラの花状を呈するので、*rosaria*

という種名がつけられたわけである。虫瘻の下方即ち柳の小枝に附着する部分は小さい鱗片状をなし恰も松傘の基部のようである。それより内部のものは舌状をなし、次第に大形の花弁状を呈する。その中心部に膜質の虫室があつて中に1頭の幼虫が棲息する。虫瘻の大きさは直径10~25mm、秋季落葉頃になつても脱落することなく、枯葉様をなしそのまま越冬する。

(5) ヤナギツトフシタマバエ

*Rhabdophaga saliyonai* SINJI

柳の小枝に寄生しその部分に長さ30mm内外、幅10mm内外の苞形の虫瘻を作るので木は次第に衰弱する。

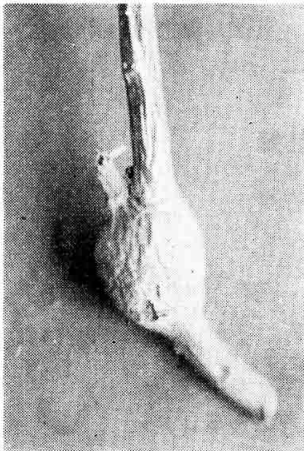
虫瘻の内部には数個の虫室があつて白色の薄膜にて被われ、その中に黄色の幼虫が見られる。幼虫態で越冬し翌春4月下旬成虫が羽化する。

(6) ササタマバエ *Hasegawaia sasacola*

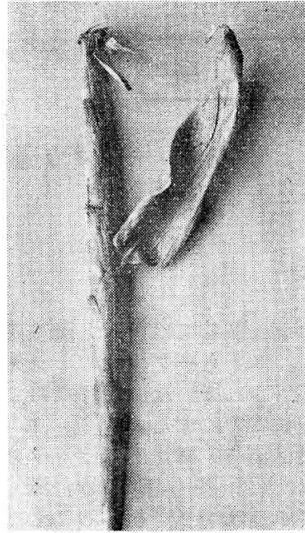
MONZEN

クマザサに寄生し、笹の芽又は側芽が長さ10~30cm、直径1.5cm位に肥大して紡錘状を呈するので一名「笹魚」と称する。古い時代から知られ、「山笹の芽が化して魚になる」という伝説がある。

虫瘻の内部には白色にて、この仲間では比較的大形



第III図 ヤナギツトフシ



第IV図 笹魚

この葉柄にツワブキハマダラバエの幼虫が寄生し虫瘻を作る。この蠅はこれまで九州や四国で知られていたが、近年愛知県にも産することが知られた。

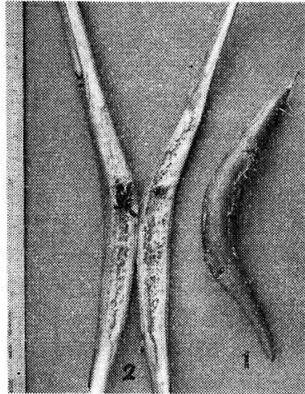
の蛆が多数群居する。春季成虫が発生し新芽に産卵する。

(7) ツワブキハマダラバエ *Paratephritis fukaii*

SHIRAKI

ツワブキは本邦の暖地の海岸や海岸に近い山林に生ずる常緑の多年草で、食用、薬用又は觀賞用に供せられる。

この葉柄にツワ



第V図 ツワブキの虫瘻

(1. 外面, 2. 内面虫室, )  
上部の黒いものは蛹

成虫は年3回発生し、葉柄に産卵する。幼虫は白い俵形の蛆で、組織内にトンネルを作つて穿孔するので内部は海綿状になる。寄生された部分は次第に脹れ、人の脛のふくらみに似ている。内部に1つの室ができると、その中に十数匹の幼虫が同居する。幼虫は老熟すると虫瘻内の上

部に集まつて蛹化する。

(8) タテキハマダラバエ *Acrotaeniostola scutellaris* MATSUMURA

本種の寄主はこれまでわからなかつたが、本年名城大学の岡留助手がクマザサに寄生することを始めて発見した。

成虫は7月頃現われ、若い笹の葉鞘の先端部の内側に産卵し、孵化した幼虫は茎内に穿入加害する。幼虫は細長い蛆状で、1本の茎に多数群棲する。寄生を受けた部分は僅かに脹れるがよく注意しないと判らない程度である。しかし笹は茎の内部が食害されるので間もなく枯れてしまう。

(愛知学芸大学教授・農博)

観 察

ストロブマツ造林地にナラタケ病現わる

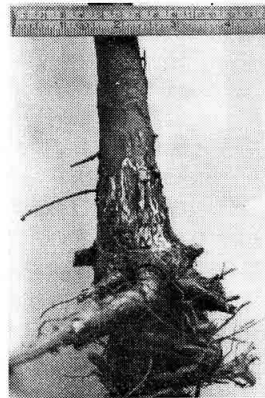
佐 保 春 芳

カラマツのナラタケ病に関しては色々と調査研究された報告があるが、ストロブマツのナラタケ病に関してはまだ報告されていない模様なので筆者の見たところを記すことにする。

東京大学北海道演習林第 76 林班内にはドイツトウヒの造林地があり、昭和 29 年第 15 号台風で風倒木を生じた。その跡地は焼払いをすることなく地ごしらえをし昭和 30 年にストロブマツ、トドマツ、シラカバ、ウダイカバ、ヤチダモ等を列で区分して植栽した。この造林地にナラタケ病が発生した。

昨秋ドイツトウヒの伐根にナラタケ（ポリポリなる方言で呼ばれている）が大量に発生し、キノコ採りの人達が何人も出かけて行き大いに収穫をあげたところである。この場所は 3~5° の南西向緩傾面で水がたまりやすく降雨後は所々に水たまりを残すような地形である。

この造林地には計 296 本のストロブマツが植栽されていたが、このうちの 10 本が 1959 年 7 月初旬調査時の被害木であつた。この造林地のすべてのストロブマツには今年 3 月下旬に緑葉をつけて外観健全であるものに対して 1 本ずつアルミニウムの番号札をつけた。従つて 7 月初旬の調査時までには枯れたものが 10 本あつたわけである。この 10 本は今年の生長を殆ど行うことなく枯れたものであるが、これ以外に今年の生長をわずかに



第 I 図 ナラタケ病被害  
ストロブマツ  
根際の樹皮をけずりつつてナ  
ラタケ菌の菌糸層を示す。

始めて枯れそうになつているもの数個体  
がその後に発見され  
ていることから、今  
後に於ても被害が増  
大することが考えら  
れる。

Boyce (Forest Pathology) や Baxter (Pathology in Forest Practice) によつても マツ属は被害を受けると記されており、また U.S.D.A. Handbook No. 100 にも

ベルギー、英国、チエツコスロヴァキア、ドイツ、ニュージールランド、ポーランド、スイス等でストロブマツのナラタケ病があると記されている。このようなことから現在ナラタケ（ポリポリ）が発生する場所にストロブマツを植えると植栽木の何%かは枯死することを考えなければならぬであろう。ナラタケ病発生後の処置は防疫ニュース Vol. 5, No. 8, p. 194-197 にある通り罹病木の抜去と焼却がよいであろう。（東京大学北海道演習林）

人体を刺すマツザイシバンムシの寄生蜂

クロアリガタバチについて

有 賀 好 文

ま え が き

本年 6 月下旬大田区役所管轄課より区下中富小学校の二階校舎に人体を刺すアリらしき害虫が発生したとの報に接し、たまたま現地調査の機会を

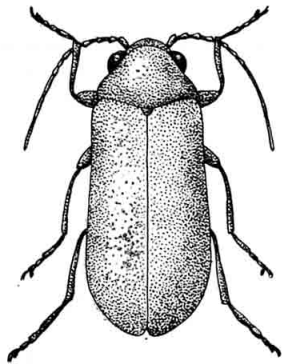
得たのでそれについて紹介する。

発生のおらまし

この校舎は昭和 26 年頃建築されたもので、こ

の刺す害虫は 30 年頃より出はじめ 33 年には非常に多く発生し、天井あるいは机上を這い廻りひどい時には天井をアリのむれのようになつて歩き落ちて来たという。6～7月の2カ月間はこの状態が続いて授業中に教師や児童が刺され、刺された個所が多少皮膚が紅潮し少しく膨れあがり、かゆくて手でかき数日間痛痒を訴へ、痛痒がさつても2カ月間くらいは約5mm程度患部にあざようのものが残つていたという。本年に至り多少下火にはなつたがやはり時々刺されるという。

### 寄主と天敵



第I図 マツザイシバンムシ

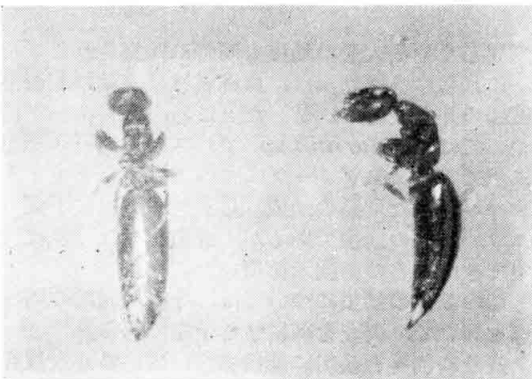
南向の日当りのよい二階校舎で5教室がつねに発生したという。天井を見るといずれもハリは皮付のアカマツ材が使用してあり、食害状況および斃死体からしてマツザイシバンムシの被害であり、本

虫が寄主であることがわかつた。

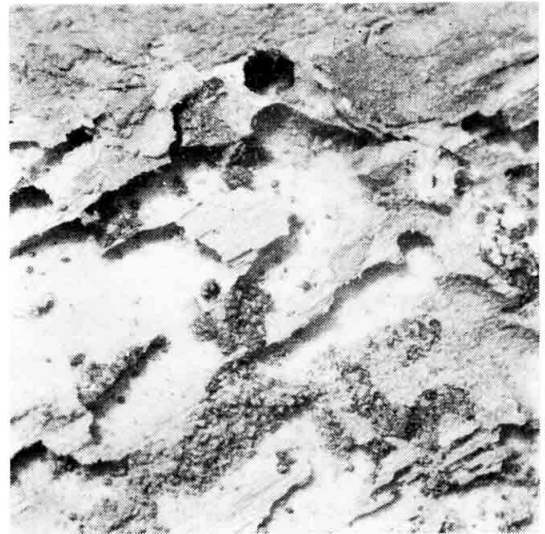
この該虫は体長 3.5～6 mm 程度で全体が栗色、眼は黒色で背面に黄色の短毛を有する。

針葉樹の枯木の樹皮下若しくは材部に穿孔加害する甲虫で、工芸的に著しく害をなすものである。

幼虫孔は不規則で互に交錯し、孔道内には白色の粉を満し、孔道の末端に材の繊維と平行に蛹室



第II図 寄生蜂  
クロアリガタバチ



第III図 マツザイシバンムシの食痕と脱出孔

が設けられる。成虫の脱出孔は円形で径 3mm 程度で、関東地方では 6～7月の候が最も多い。

人体を刺す害虫はこの寄生蜂でクロアリガタバチであり、この寄生蜂は林業的には有益であるが、人体の直接害虫となるもので、天敵が人体を刺すおもしろいケースの害虫である。

体長は 2～2.5 mm 程度で全体が黒色ないし黒褐色で、雄には翅があるが雌には翅がなく、刺すほうは雌のようである。

現地調査ではハリに使用されている皮付のアカマツ材はマツザイシバンムシが寄生し余地ないまでに食害されておりながら、いまだに寄生蜂が発生するという事はハリ以外の材を加害するマツザイシバンムシに寄生しているものと思われる。

なおこのことについては故湯浅啓温博士、尾上哲之助氏(昭和4年5月)による畳表の害虫クシヒゲシバンムシの新寄生蜂クロアリガタバチについての調査報告があり、最近では昭和27年6月厚生省予防衛生研究所朝比奈正二郎博士の大塚の聾啞学校に発生した時の報告がある。

この調査に色々御教示を頂いた予研の朝比奈博士、農業技術研究所長谷川仁技官に対して厚くお礼申し上げます。

(林業試験場保護部昆虫研究室)

注:本報告のクロアリガタバチについて、長野市の長野税務署に発生し人体を刺したと云うことの情報及び長野県林政課森林保護担当官より被害はマツの皮付丸太を使用した材より発生していると知らされた。なお情報は後掲する。(編集委員)

## 4~6月頃スギ林内で採集される

## タマバエ科の幼虫

加藤 銈 治

1957年6月、神奈川県川崎市柿生のスギ幼令林内で、スギノハダニの被害状況の調査を行った際に、スギタマバエ幼虫の脱出孔と見られる極めて新しい痕跡のある針葉を見つけたので、枝条を採集して帰り、少量の水を入れて飼育ビンの中に保管しておいたところ、間もなく数頭の幼虫が脱出しているのを認めた。

この幼虫は色・大きさ・形等が秋から冬に脱出するスギタマバエの幼虫と、区別しがたい程似ていることからスギタマバエ或はその近縁種と思われるタマバエの幼虫が、通常のスギタマバエの幼虫の脱出期と異なる6月中にスギの針葉から脱出することが明らかになった。

その後、中郡大磯町高麗にある県有林内のスギ幼令林について、調査したところ、前記川崎市に於けると全く同種のもが見いだされた。

1958年5月、幼虫採集用の受器を入手することができたので、高麗山県有林内の8年生スギ林内にこれを設置し、同月20日から観察を初めたが、その後、同林内に他の施設をすることになったので、6月16日を以てその調査を中止した。

この間、 $1\text{m}^2$  当り平均の1日の幼虫落下数は6.9~19.4頭であつた( $1/4\text{m}^2$ の受器3~5ヶに落下したものの平均から算出した)。

同年10月17日、前記のスギ林に隣接する同令の林内に幼虫採集用受器10ヶを設置し、同月28日まで、秋期の幼虫の落下状況を調査したが、この場合の $1\text{m}^2$  当り平均1日の幼虫落下数は1.7~21.0頭で、前記の5~6月に落下するものと異なる通常のスギタマバエも棲息していることは確実であつた。

1959年4月7日、再び同林内に幼虫採集用受器を5ヶ設置し、6月4日まで幼虫の落下状況を調査したところ、別表のような結果を得た(表のAグループ)。

なお、この調査の際、前記の幼虫の他に、赤色でやや大形の幼虫(表のBグループ)及び灰白色

タマバエ科幼虫3種の落下状況

調査期間	1日平均の落下頭数/ $\text{m}^2$			期間中の気象状況		
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	最低気温	最高気温	雨量
4.7~10	18.4			4.0°	20.5°	45.4
11~15	6.4			4.0	23.0	43.2
16~20	2.4			4.2	23.0	16.9
21~25	7.2			11.0	24.5	88.1
26~30	8.8			12.0	27.0	28.8
5.1~5	4.8			12.0	28.0	20.3
6~10	4.8			6.0	28.6	37.8
11~15	4.0	17.2		10.0	23.5	23.8
16~20	232.0	18.4	29.6	8.3	20.6	56.3
21~25	22.4	8.6	56.8	7.6	26.4	43.5
26~30	16.8		1.6	10.0	28.0	2.6
5.31~6.4	5.6		0.8	11.5	24.5	16.8

で同じくやや大形の幼虫も同時に採集された。

これらの各種幼虫は、農林省林業試験場北海道支場の井上技官に送付したところ、Aグループについては *Contarinia* sp. で、スギタマバエ幼虫に似ている。Bグループについてはスギザイノタマバエに似た別種の幼虫、Cグループは属不明のタマバエ科の幼虫であるが、成虫を見なければ同定できないとの御教示を頂いた。

この3種の幼虫については、今後も同氏の御指導を仰いで、調査を継続する予定である。

終りに色々と親切に御指導頂いている井上技官に厚く御礼を申し上げる次第である。

(神奈川県林業指導所)

## 木醋液の採取方法について

今野敏雄

## 1. はじめに

従来、苗畑の播種床に発生する立枯病に対しては、水銀製剤による土壤消毒が定法とされていたが、林試秋田支場釜淵分場長の野原技官らによつて、木醋液の効果が非常に大きい場合のあることが認められている。木醋液を立枯病防除に使用することは、製炭業者の副産収入という点からも関心がもたれる。

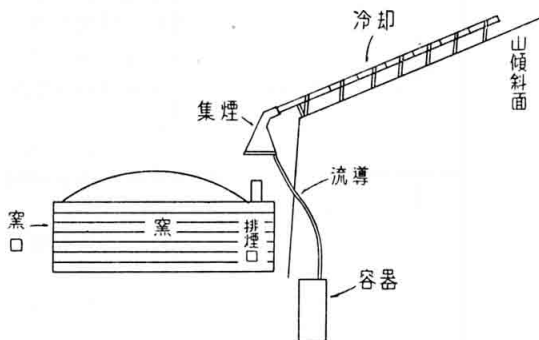
筆者は製炭と養苗の両面を考慮して、昨年より木醋液の試験的採取にかかっているが、その方法について述べ、大方の御参考に供したいと思う。木醋液のことについて常に御指導いただいている野原技官に厚く謝意を表する。

## 2. 木醋液の採取

ここでいう木醋液とは、製炭の副産物で、煙を冷やしてとつた、ツンと鼻をつく所謂窯の臭いや煙の臭いのする褐色の液である。この組成成分は、製炭方法などにより若干異なるが、比重は水よりほんの僅か大きく、木醋酸・蟻酸などを主体にした含酸度が3~7%で、タール分などの固形分が0.5~2%程度であると言われている。あくまで主産物である木炭の質に影響させずに採取するので、極めて濃度のうすいものであることは当然であろう。以下2,3の項目について筆者の採取結果を基礎に述べてみよう。

## (1)採取の方法

第I図に示すように、構造としては、集煙・冷却・流導・容器の4つの装置の組み合せから出来ている。之を窯の位置と地形によつてじょうずに取りつけければよいわけである。ここで特に注意すべきことは、炭質に悪影響を及ぼさないように、集煙器は少なくとも排煙口から60糎はなし、更に充分着火してから採取にかかることが大切で



第I図 採取装置横断面図

ある。

## (2) 取付の経費

筆者が採取装置を取付けた経費は、集煙（特に製作）2,000円、冷却（4寸土管6間の空冷式）1,530円、流導（径8分のビニール管）200円、容器（1斗缶10個、ドラム缶3個）3,700円、その他資材200円、労力費（3人）1,200円で合計8,830円である。しかし、この中には貯蔵用の容器が入っていない。出来上つた製品をすぐ処理する対策がとられていない時は、窯数を考えた貯蔵用の容器が必要になり、この経費は相当大きくなると思う。

## (3) 採取量

10尺丸型黒炭窯の実例によると1つの窯から月平均160lの収量があり、月別には大きい開きがある。

即ち、空冷式は季節の気温に支配され易く、夏から秋に向つて採取量は確実に上昇していることがわかる。野原技官の白炭窯（3~4俵の日窯）の例によると、冬季に於いて13l~20l（1回に付き）の実績をあげている。

## (4) 価格

果して木醋液はどのくらいの値段であるかは、生産者にとつても利用者にとつても問題である。それは副産物としての木醋液が、未だ極めてせまい消費分野しか持たないためでもあるし、液そのものよりも容器代なり運賃が割高につくことにも基因し、更に製炭の現場が最近とくに遠くなり、立地条件が悪いので、この価格には相当に広い巾が出て来るものと考えられる。生産コストから算出すると、設備の償却費と採取費および売り渡し場までの運搬費の合計となり、大まかにみて、大体180l当り1,000円ということにならう。価格は需要と供給の関係できまるのだから、生産と消費、特に利用の拡大が今後の価格を大きく左右することにならう。

## (5) 今後の問題

採取装置および貯蔵など全般的に注意せねばならないのは、木醋液は酸を含むのだから、酸に弱いものは長く持たない。木製品か陶製品が最も良く、取付の経費なども今後の研究によつてまだまだ安くあがるものと思われる。また、利用方面がせまいので、出来れば消費と結びついた生産を図ることが賢明で、更に積極的な利用開拓が望まれる。（山形県西村山地方事務所農林課）

## 森林防疫ニュース

## 情 報

## ◇ 被害速報

## 病 害

## ○ タケの開花病

発生場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
京都 相楽郡加茂町 大字井平尾及 大野		マダケ	面積 2 ha 材積 3,000束	4.28	木津事務所 田川富士雄	木津川沿いに昨年と同様発生 拡大のおそれあり。

## ○ スギの赤枯病

群馬 甘楽郡下仁田 町大字上小坂		スギ 5年生	面積 0.8 ha 本数 2,000本	5.1	富岡林業事務所 長岡 武雄	植栽 8ha の内が団地的に冬か ら春にかけて枯死状態となり 最近先端に発芽している。
---------------------	--	-----------	------------------------	-----	------------------	---

## ○ スギさし木苗灰色黴病

京都 与謝郡野田川 町		スギさし 木苗 2年	面積 0.25ha 本数 20,000本	4.22	宮津事務所 Ag. 山田 勇二	軟弱な新芽や枝の先端部が侵 され褐色になり腐敗病原菌が 見られる。ウスプルン加用ポ ルドー合剤散布。
----------------	--	---------------	-------------------------	------	--------------------	---

○ ヒノキの立枯病 (*Pestalotia* sp.)

三重 度会郡度会町 大字棚橋		ヒノキ 3年生苗	面積 0.1ha 本数 30,000本	5.15	伊勢林業事務所 Ag. 浦田 吉介	下葉から褐変し漸次上部に及 び甚だしいものは枯死した。 ウスプルン加用ポルドー液散 布。
-------------------	--	-------------	------------------------	------	----------------------	---

## ○ スギの赤枯病

## ○ ヒノキのベスタロチヤ病

岐阜 加茂郡八百津 町大字久田見		スギ・ヒノ キ 3年苗	面積 1.5 ha	5.10	八百津町 飯田 幸男	苗畑に発生、全体の4割に被 害を及ぼしている。
---------------------	--	----------------	-----------	------	------------	----------------------------

## ○ マツの葉さび病

宮城 青森局気仙沼 署気仙沼事業 区1林班ろ小 班(本吉郡唐 桑町官行造林)		アカマツ 2~5年 17~29年	面積 135 ha 本数 73,700本	5.4	唐桑担当区 小岩 喜一	2~5年生に被害多く17~29 年に発生少し。本地域は海岸 に近い海拔400m以下の所で 幼令林33haに粉剤ポルドー ha当り30kg散布。
加美郡宮崎町 大字北川内県 有林		アカマツ 4年	面積 20 ha 本数 86,400本	5.7	県・県有林係 千田 早人 県・Sp. 早坂 義雄	激害木20本は灰黄褐色を呈し 枯死寸前である。今秋銅粉剤 を散布予定。
山形 上市市大字中 山		アカマツ 5~6年	面積 2 ha 本数 1,000本	4.12	県・Sp. 齋藤 諦	針葉上に黄色の突起が多数形 成されさび胞子が飛散してい る。
長野 西筑摩郡玉滝 村大字タル沢		アカマツ 1~5年	面積 45 ha 本数 40,000本	5.14	三岳村 Ag. 本南 清人	本地域は村有林で激害5ha, 微害40haで始めて発生した ものである。

## ○ エゾライガン病

北海道 北見局斜里署 斜里事業区以 々科苗畑(斜 里郡斜里町)		トドマツ 当年生苗	面積 88m <sup>2</sup>	4.15	以々科苗畑 三浦 春男	本被害地は33年11月上旬9月 採種の種子をまき付したが部 分的に発芽せず掘ってみると 大豆大の黒色の塊を発見した
--	--	--------------	---------------------	------	----------------	--

## 病 虫 害

## ○ マツの葉さび病

## ○ マツカレハ



1959

## 森林防疫ニュース

## ○ マツノキハバチ

発生場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
茨城 那珂郡那珂町瓜連町県指導林		アカマツ 1~55年	面積 82 ha 本数 251,700本	4.15 5.2	茨城県森林経営指導所 近藤 秀明	被害は中又は激害、燻煙剤及び BHC γ 3% 粉剤散布

## 虫害

## ○ キマダラコウモリ

山形 最上郡真室川町及位字朴沢		スギ 5~6年	面積 10 ha 本数 250本	4.10	新庄市 Ag. 二藤部貞助 県・Sp. 齋藤 謙	成長の良好な木の下部に食害している。
-----------------	--	---------	---------------------	------	--------------------------------	--------------------

## ○ スギメムシガ

宮城 青森局仙台署仙台事業区72, 75林班(名取郡秋保村大字馬場)		スギ 7, 9, 10年	面積 13 ha 本数 36,300本	5.13	仙台署	標高約 500m の南又は北への急傾斜造林地で新芽を加害され生育が阻害されている。
------------------------------------	--	--------------	------------------------	------	-----	---

## ○ カラマツツミノガ

北海道 函館局函館署七飯苗畑(亀田郡七飯町大字本町)		カラマツ	面積 29 ha	5.9	七飯苗畑事務所	苗畑防風垣に発生。樹高の低いものは BHC 粉剤で防除したが高いものは被害が大きい。
岩手 青森局大船渡署大船渡事業区73, 75林班(気仙郡住田町大字世田米)		カラマツ 20~21年	面積 20.39 ha 本数 15,000本	5.14	大船渡署	針葉を食害し、黄褐色を呈している。当地域は昨年発生し燻煙筒 31 筒により 5 ha 駆除をなした所である。
宮城 遠野市小友町長野		カラマツ 3~40年	面積 7 ha	5.15	遠野農林事務所・Ag. 菅原 大次	カラマツ造林地に発生し褐色を呈している。
宮城 玉造郡鳴子町鬼道県有水害予防林		カラマツ 8年	面積 1 ha 本数 50本	5.3	県・Sp. 早坂 義雄	林縁に発生が多い。現在1枝に 1~2 匹で蛹化中。
福島 前橋局猪苗代署中之沢担当区部内(耶麻郡猪苗代町大字若宮)		カラマツ 28~35年	面積 50 ha 本数 10,000本	5.10	猪苗代町 相原 丸次	針葉を食害し赤褐色を呈している。
前橋局喜多方署喜多方事業区83林班(耶麻郡北塩原村大字大塩)		カラマツ 27~50年	面積 20.2 ha 本数 20,000本	5.15	北塩原村 遠藤 義次	4 月下旬より造林木の上端が変色し 5 月に入り黄変するので調査した所食害を認めた。林縁木に被害が多い。
長野 長野局岩村田署浅間事業区26林班(北佐久郡御代田町大字塩野)		カラマツ 61~70年	面積 4 ha 本数 300本	5.7	岩村田署長 村上 巽 御代田担当区 丸山 未人	針葉を食害し一部には既に蛹化したものも見受けられる。

## ○ ハイイロアミメハマキ

長野 長野局飯山署飯山事業区 158 林班(下高井郡木島平村大字上木島)		カラマツ	面積 26.64 ha	5.14	上木島担当区 中野 平吉	被害地のうち半分は官行造林地であり、現在新葉を繰り合せてその中に入っているが間もなく中より出て食害すると思われる。
--------------------------------------	--	------	-------------	------	-----------------	---

## ○ マツツマアカハマキ

北海道 檜山郡江差町	激	クロマツ 3~10年	面積 16 ha 本数 144,000本	4.10	道	BHC γ 3% 粉剤 960 kg 燻煙筒 10 本で 4 月下旬駆除。
------------	---	------------	-------------------------	------	---	---------------------------------------

## 森林防疫ニュース

## ○ カラマツイトヒキハマキ

発生 の 場所	被害程度	樹 種 令	被 害 数 量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
長野 長野局上田署上田事業区(小県郡真田町傍陽)		カラマツ 5~50年	面積 2,500 ha	5.9	傍陽第一担当区 三沢 有	現在食害を開始したばかりで被害は少ないが本格的に活動すれば本地域のカラマツは全滅に近くなると思われる。

## ○ マツカレハ

岩手 一関市真柴	激	アカマツ 6~10年	面積 2 ha 本数 12,000本	5.1	県	BHC γ 3% 粉剤 ha 当り 30 kg 散布。
一関市赤荻	激	アカマツ 6~10年	面積 8 ha 本数 32,000本	5.1	県	BHC 粉剤で駆除。
胆沢郡前沢町	激	アカマツ 6~10年	面積 2 ha 本数 8,000本	5.1	県	BHC γ 3% 粉剤 ha 当り 30 kg 散布。
宮城 青森局仙台署仙台事業区83林班(宮城郡泉町上谷刈)		アカマツ 26~56年	面積 18.46 ha 本数 9,200本	4.13	仙台署	越冬幼虫が針葉を食害している。
青森局仙台署仙台事業区87林班(仙台市新浜)		アカマツ クロマツ 3~126年	面積 9.93 ha 本数 5,000本	4.16	仙台署	針葉を食害している。
青森局中新田署中新田事業区 4~7 林班(加美郡中新田町菜切谷)		アカマツ 25~30年	面積 100 ha 本数 200,000本	5.1	中新田担当区 山本 和徳	当地域は31年度に発生し激害地は団状的に枯死した。本年被害が多くなったので 20 ha を燻煙剤により駆除。
茨城 東京局笠岡署笠岡事業区31林班(新治郡八郷町根小屋)		アカマツ クロマツ 4年	面積 1.26 ha	5.6	柿岡担当区主任	峠に近い平坦部の風の少い林分で特にアカマツに被害が多い。
岐阜 加茂郡七宗村大字神淵		マツ 5~60年	面積 300 ha 本数 600,000本	4.1	川辺町 三輪 一	激害 50 ha, 中害 150 ha, 微害 100 ha である。
加茂郡川辺町上川辺		マツ 5~60年	面積 200 ha 本数 400,000本	4.1	川辺町 三輪 一	激害 5 ha, 中害 110 ha, 微害 85 ha の内訳である。
加茂郡八百津町久田見		アカマツ 5~50年	面積 30 ha 本数 100,000本	4.10	八百津町 飯田 幸男	針葉を食害している。
静岡 東京局浜松署浜松事業区59林班(引佐郡三ヶ日町只木)		アカマツ クロマツ 5年	面積 1 ha 本数 2,500本	5.13	三ヶ日担当区 小田倉繁松	アカマツ天然林の葉を食害している。
三重 四日市市泊町		アカマツ クロマツ 5~10年	面積 50 ha	5.3	四日市市 加藤 寛昭	数年前より少々の被害は認められた。激害 0.3 ha 枯死。
奈良 橿原市久米町		アカマツ クロマツ 40~70年	面積 25 ha 本数 1,700本	5.14	第5森林区 松岡善之助	2~3年被害発生を見なかつた。BHC γ 3% 粉剤散布。
生駒郡斑鳩町		アカマツ 10~200年	面積 55 ha 本数 17,000本	5.15	生駒町 Ag. 吉田 貞雄	法隆寺の境内及び寺有林に毎年発生。BHC γ 3% 粉剤散布。
島根 知夫郡西の島町美多		アカマツ クロマツ 10~30年	面積 150 ha 本数 120,000本	5.7	県 吉岡 技師	被害は激害 50 ha, 中害 100 ha である。
知夫郡西の島町三度	激	アカマツ クロマツ 5~25年	面積 19 ha	5.15	県 吉岡 技師	BHC γ 3% 粉剤散布。
周吉郡西郷町岬	激	アカマツ クロマツ 5~30年	面積 2 ha	5.15	県 吉岡 技師	BHC γ 3% 粉剤散布予定。
宮崎 東諸県郡綾町北俣		マツ 5~10年	面積 3 ha 本数 12,900本	5.上	日本パルプ宮崎営業所 柳本 親宏	一部枯死も考えられる。1本に 50~60 匹についている。

1959

## 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

発 生 の 場 所	被害程度	樹 種 令	被 害 数 量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
宮 崎	南那珂郡北郷町 北川	マツ	面積 0.2 ha 本数 860本	5.上	日本パルプ宮崎営業所 柳本 親宏	
		5~10年				
	日南市大字伊比 井字永石	マツ	面積 8 ha 本数 34,400本	5.上	〃	
○ クスサン						
京 都	京都市岩倉	クリ	面積 4.7 ha 本数 600本	5.1	京都林務出張所 田村 敏夫	南向山麓の緩傾斜の栽培林に発生したものである。
○ キンタエダシヤク						
大 分	熊本局大分署大 分事業区46林班 (直入郡久住町 有氏)	ミヤマキ リシマ	面積 100 ha	5.1	大分署 渡辺 秋義	昨年も発生したが5月上旬 BHC γ 3% 粉剤 2,000 kg を散布。
○ セグロシヤチホコ						
山 形	上市市大字中山	ポプラ	面積 0.5 ha	4.12	県・Sp. 斎藤 諦	樹冠の下部の葉を食害し1本 に30~50匹の幼虫が認めらる
○ マイマイガ						
北 海 道	上川郡神楽町	カラマツ	面積 63 ha 本数 144,000本	4.30	道	5月上旬孵化。BHC γ 3% 粉 剤散布 62 ha。
	上川郡東神楽村	カラマツ シラカバ	面積 250 ha	5.12	道	BHC γ 3% 粉剤散布。
	上川郡東川村	カラマツ	面積 35 ha	5.12	道	BHC γ 3% 粉剤散布。
	上川郡鷹栖村	カラマツ	面積 6 ha	5.12	道	BHC γ 3% 粉剤散布。
岩 手	胆沢郡衣川村	カラマツ ヤナギ ナラ	面積 500 ha 本数 1,500,000本	5.10	県 円子 信幸	現在主としてヤナギ、ナラを 食害 32, 33 年卵塊採取。
長 野	中野市大字科野	アカマツ 15年 カラマツ 30年	面積 5 ha 本数 13,000本	4.28	下高井地方事務所 代田多見雄	現在孵化したばかりで被害少 い。BHC γ 3% 粉剤散布。
○ ヨトウガ						
長 崎	下県郡美津島町 鶏知	スギ, ヒ ノキ, マ ツ当年苗	面積 0.2 ha 本数 1,000,000本	5.8	対馬支庁林業指導所長 七条 滋	県営苗畑の当年生苗を食害。 1 m <sup>2</sup> 当り 20~30 匹生息。
○ カタビロトゲトゲ						
新 潟	南魚沼郡六日町 大字四十日	広葉樹 1~25年	面積 107 ha	5.1	六日町 Ag. 川久保知章	昭和 27, 32 年発生。特にナ ラを食害している。
○ スギノアカネトラカミキリ						
山 形	山形市大字滑川	アスナロ 40年	面積 0.5 ha 本数 20本 材積 0.5 m <sup>3</sup>	4.9	県・Sp. 斎藤 諦	枯死した枝の中に成虫が棲息 している。
奈 良	吉野郡川上村塩 谷	スギ 60年		5.14	県・Sp. 村田 武彦	土場に集積した素材上に成虫 を発見。被害地調査中。
○ キイロコキタイムシ						
兵 庫	出石郡出石町大 字内町	アカマツ 50~350年	本数 7本 材積 140 m <sup>3</sup>	4.10	出石町 湯口 巖	庭木の赤松に多くついて枯死 している。

森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
島根		大阪局松江署志々官造地(飯石郡頓原町)	アカマツ 本数 16本	4.25	今市担当区 寺井 隆	衰弱木に多い。
		大阪局松江署齋巢川跡官造地(出雲市)	アカマツ 本数 26本	5.6	今市担当区 寺井 隆	梢冠部の主幹又は枝条に寄生し枯死している。伐倒剥皮焼却。
○ マツノコキクイムシ						
兵庫		津名郡五色町大字都志及鮎原	マツ 本数材積 9本 11.7m <sup>3</sup>	4.1	五色町 小霜 市郎	30年より毎年被害をうけている。
○ 松くい虫						
千葉		東京局千葉署君津事業区(君津郡大佐和町)	クロマツ 本数材積 272本 127m <sup>3</sup>	3.1	局	南西向き急斜地の潮害による衰弱木に発生。
		島根 大田市大代町及び祖式町	アカマツ 材積 14m <sup>3</sup>	5.4	県 吉岡 技師	薪炭林中に点在する老令木の梢端枯程度に見られる。
		飯石郡頓原町志津見	アカマツ 材積 14m <sup>3</sup>	5.15	県 吉岡 技師	広葉樹林中に点在する老令木の梢端枯程度である。
香川		出雲市林木町齋巢	アカマツ 本数材積 310本 14m <sup>3</sup>	5.15	県 吉岡 技師	被害は微害。一部伐倒剥皮焼却。
		高知局高松署高松事業区50林班(綾歌郡綾歌町岡田)	アカマツ 面積本数材積 16.76ha 41本 8m <sup>3</sup>	4.17	岡田担当区 山沖 常久	被害木は点在して居り枯死する前に樹脂を樹幹外に多量に出している。
○ キクイムシ科の1種						
京都		天田郡三和町下川公外	クリ 面積本数 20ha 1,000本	4.1	三和町 川村 健	地上1~1.5mの幹に穿入している。同定中。
○ マツノキハバチ						
福島		石城郡小川町大字柴原字大社	アカマツ 面積本数 24.6ha 100,000本	5.7	県・Sp. 佐々木技師	昨年伸長の針葉を2~3匹で食害している。
		石城郡小川町大字柴原	アカマツ 面積本数 18.1ha 70,000本	5.7	川前村 大川原 進	東南向の丘陵に発生 BHC γ 3% 粉剤をha当り20kg散布完全駆除をなした。
茨城	激	那珂郡緒川町	アカマツ 面積本数 10ha 60,000本	5.6	第12森林区 Ag. 富山 操	2haは駆除を実施。
		東京局笠間署筑波事業区30林班(新治郡八郷町瓦谷)	アカマツ 面積 3.69ha	5.12	八郷町 鈴木 義三	全域にわたり点状に発生している。BHC 粉剤散布。
神奈川		東京局大子署大子事業区(久慈郡大子町)	アカマツ 面積本数 0.76ha 1,100本	5.1	局	稚樹発生地の稚樹の新芽を食害している。
		大和市下鶴間	マツ 本数 4本	5.17	県 飯村 武	激害木1本は全葉量の90%を食害。捕殺83頭。
京都		船井郡日吉町大字田原	アカマツ 面積 30ha	5.2	日吉町 Ag. 山口 重男	2,3年前より漸次増加している。
鳥取		気高郡青谷町澄水・鳴滝・紙屋	アカマツ 面積本数 4.89ha 17,600本	4.25	東部山林事務所 尾崎 増治	針葉を食害している。幼令木の針葉を食害している。
		倉吉市高城	アカマツ 面積本数 60ha 100,000本	4.1	県	
		西伯郡大山町	アカマツ 面積本数 30ha 30,000本	5.6	米子市 福田 重雄	BHC 粉剤を散布予定。

## 森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
鳥取 日野郡日南町		アカマツ 1~5年	面積 10 ha 本数 25,000本	5.6	日南町 池本 隆	造林地 150 ha 中に散在している。マラソン 2% 粉剤 ha 当たり 9 kg 散布。
日野郡日南町大字印賀		アカマツ 1~5年	面積 10 ha 本数 25,000本	5.6	日南町 池本 隆	針葉を食害している。マラソン粉剤 ha 当たり 9 kg 散布。
島根 大阪局川本署川本事業区1林班(大田市大代町)		アカマツ 10年	面積 2 ha 本数 5,000本	5.6	川本署	昨年より発生。新葉を食害生育を阻害している。
江津市江津町		アカマツ 5~7年	面積 1 ha 本数 1,400本	5.7	県 吉岡 技師	前年生の針葉を悉く食害している。
飯石郡赤来町下赤名		アカマツ 5~7年	面積 1 ha 本数 2,700本	5.7	県 吉岡 技師	針葉を食害している。
岡山 久米郡久米町神代		アカマツ 5~10年	面積 3 ha 本数 8,000本	4.22	県・Sp. 香山 馨 第21森林区 Ag. 水島 昌男	群棲して針葉を食害。1群 20~40 頭で分散しつつある。
山口 阿武郡旭村大字佐々並		アカマツ 6年	面積 0.01 ha 本数 8本	5.6	第63森林区 Ag. 黒川 昇	谷間のスギ、ヒノキ造林地内のアカマツを食害している。
大分 東国東郡安岐町	中	クロマツ 1~5年	面積 0.7 ha 本数 2,500本	4.20	県	南面のマツ林に発生したものである。
東国東郡安岐町	中	クロマツ 6~10年	面積 1.5 ha 本数 5,000本	4.20	県	西向のマツ林の針葉を食害している。
東国東郡武蔵町	微	クロマツ 6~10年	面積 2 ha 本数 6,500本	4.25	県	東南低地マツ林に発生した。
東国東郡国東町	中	クロマツ 1~5年	面積 0.5 ha 本数 2,000本	4.10	県	西向マツ林の針葉を食害している。
東国東郡国東町	微	クロマツ 6~10年	面積 2.7 ha 本数 10,000本	4.10	県	西面マツ林に3令程度幼虫が針葉を食害している。

## ○ クリタマバチ

岩手 青森局宮古署宮古事業区11林班(下閉伊郡山田町)		クリ	面積 26 ha 本数 2,200本	5.上	山田町 Ag. 片方 左京	幼虫を問わず 7~8 割の被害を受けている。樹高 1.5~2m の立木に多くて 40 個虫えいがついている。
山形 米沢市李山, 大平, 赤崩		クリ 15~20年	面積 60 ha 材積 667m <sup>3</sup>	4.13	県・Sp. 斎藤 諱 米沢市 Ag. 降幡 和男	この地方の被害の発生は始めてである。
福島 双葉郡葛尾村大字野川字浜井場		クリ 10~20年	面積 500 ha 材積 139m <sup>3</sup>	5.12	富岡林業事務所 Ag. 木村 技師	薪炭林中のクリに被害が表れている。
双葉郡浪江町	中	クリ 5~30年	面積 650 ha 本数 5,000本	5.15	富岡林業事務所 Ag. 小林礼三郎	用材として保残したクリに被害を多く受けている。
栃木 塩谷郡高根沢町	中	シバクリ 2~15年	面積 33 ha 材積 350m <sup>3</sup>	5.20	県	伐枝焼却の予定。
塩谷郡氏家町		シバクリ 2~15年	面積 4 ha 材積 93m <sup>3</sup>	5.20	県	ゴールをつくり幼虫が生息している。被害は中害 3 ha, 微害 1 ha で伐枝焼却の予定。
塩谷郡喜連川町	微	シバクリ 2~15年	面積 24 ha 材積 371m <sup>3</sup>	5.20	県	雑木林内のシバクリに発生している。
塩谷郡塩谷村	微	シバクリ 2~15年	面積 7 ha 材積 432m <sup>3</sup>	5.21	県	伐枝焼却の予定。
矢板市		シバクリ 2~15年	面積 13 ha 材積 242m <sup>3</sup>	5.21	県	雑木林内のシバクリに発生している。伐枝焼却予定。
矢板市	微	丹波栗 20年	面積 0.1 ha 本数 20本	5.21	県	栽培栗に発生。伐枝焼却の予定である。
群馬 前橋市勝沢町		クリ 30年	本数 1本 材積 0.3m <sup>3</sup>	5.5	吾妻林業事務所 戸塚幸二郎	宅地内にあるクリに被害が出たものである。
新潟 中蒲原郡村松町十金	激	クリ 4~10年	面積 30 ha 材積 194m <sup>3</sup>	4.22	県	抵抗性品種の導入天敵の保護利用を計画中。

## 森林防疫ニュース

発生の場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
新潟 中蒲原郡村松町		クリ 4~10年	面積 材積 60 ha 388m <sup>3</sup>	4.30 県		薪炭林に被害が表れている。
南魚沼郡六日町		クリ 5~15年	面積 材積 25 ha 400m <sup>3</sup>	4.30 六日町	川久保知章	本年始めて発生したものである。
南魚沼郡塩沢町		クリ 10~40年	面積 材積 15 ha 100m <sup>3</sup>	5.10 六日町	Ag. 久保 益偉	ゴールの採取焼却。
中蒲原郡村松町 大蒲原	中	クリ 20年 7年	面積 材積 2 ha 6m <sup>3</sup>	4.30 県		栽培クリに発生したものである。
中蒲原郡村松町 大蒲原	激	クリ 4~10年	面積 材積 6 ha 388m <sup>3</sup>	5.11 県		薪炭林に発生している。
中蒲原郡村松町 川内地	激	柴クリ 15~25年	面積 材積 1 ha 4m <sup>3</sup>	5.11 県		栽培クリに発生したものである。
	激	柴クリ 4~10年	面積 材積 150 ha 970m <sup>3</sup>	5.11 県		薪炭林中に発生している。
	中	養成クリ 7~25年	面積 材積 3 ha 10m <sup>3</sup>	5.11 県		栽培クリに発生したものである。
中頸城郡高士村		クリ 1~20年	面積 材積 100 ha 35m <sup>3</sup>	5.8 県		天敵の導入, 抵抗性品種の導入。
中頸城郡清里村		クリ 1~20年	面積 材積 200 ha 70m <sup>3</sup>	5.8 県		薪炭林中に発生している。
高田市	中	クリ 1~20年	面積 材積 500 ha 175m <sup>3</sup>	5.8 県		薪炭林に発生している。
長野 長野局飯田署飯 田事業区 250 林 班 (下伊那郡豊 丘町)		クリ 10~30年	面積 材積 1 ha 5m <sup>3</sup>	5.5 豊丘担当区	大谷 安昌	

## ○ マツノシントメタマバエ

静岡 吉原市丸火東		クロマツ 9~10年	面積 本数 14 ha 131,500本	5.18 沼津林業事務所 野山 技師		11月~12月 BHC γ 3% 粉剤 散布予定。
-----------	--	---------------	-------------------------------	-----------------------	--	------------------------------

## ○ スギノハダニ

東京 八王子市上恩方 町		スギ 4~10年	面積 本数 13 ha 39,000本	5.10 八王子市	Ag. 村上 崇	33年10月頃より発生を見ている。
静岡 東京局気田署気 田事業区 (磐田 郡水窪町)	微	スギ 1~5年	面積 本数 0.1 ha 200本	4.12 局		北面の急斜地に発生, EPN 粉剤散布。
東京局気田署気 田事業区 (周智 郡春野町)		スギ 6~10年	面積 本数 0.5 ha 800本	4.26 局		南流する沢をはさむ両側の急 斜地である。EPN 粉剤を散 布。
三重 大阪局亀山署亀 山事業区 2~9林 班 (亀山市)		スギ		4.28 亀山署長	高垣 左藤	スギの幼令林カ所全域にわた って大なり小なり被害があり 放置すると大害を及ぼすと思 われる。
鳥取 日野郡日南町		スギ 3~10年	面積 本数 30 ha 63,000本	4.25 日南町	前田 正幸	ネオサツピラン乳剤及び DN 粉剤散布予定。激害 20 ha。
日野郡日南町 霞, 丸山, 三栄		スギ 2~10年	面積 本数 60 ha 130,000本	5.6 日南町	前田 正幸	DN 粉剤, ネオサツピランを 散布。黄褐色を呈している。
岡山 久米郡久米町		スギ 2~10年	面積 本数 20 ha 300,000本	5.4 久米町	水鳥 昌男	造林地並びに採種園に発生し ている。
広島 比婆郡西城町		スギ 3~15年	面積 本数 50 ha 150,000本	4.20 第30森林区	Ag. 安瀬原 進	被害枝は黄色になつている。 オオサツピラン粉剤散布。

1959

## 森林防疫ニュース

## 獣害

## ○ ノネズミ

発生場所	被害程度	樹種令	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
青森 青森局脇野沢署 脇野沢事業区 227林班(下北 郡脇野沢村)		スギ 5年	面積 0.16 ha 本数 218本	5.10	脇野沢村 山形栄之進	地際から地上35cm位までの ところが被害されている。
岩手 下閉伊郡岩泉町 大字斐野		アカマツ 3年	面積 1 ha 本数 4,000本	4.15	県 円子 信幸	根部を被害され枯死してい る。
青森局久慈署久 慈事業区89林班 は小班(久慈市 宇部町大字小 倉)		クヌギ 2~3年	面積 2 ha 本数 356本	5.14	久慈担当区 千田 三夫	クヌギ造林地に発生。被害木 は地下部5~10cmの所が噛 み切られて枯れている。被害 は軽微、殺鼠剤により駆除を 行う予定。
宮城 栗原郡花山村大 字本沢字滝ノ沢		アカマツ 5~6年	面積 33 ha 本数 1,000本	5.13	県・Sp. 早坂 義雄 片倉 正	根際部より地下根径殆んどが 齧食されて根倒しになっている。 今秋燐化亜鉛剤で駆除の 予定である。

## ○ ハタネズミ

長野 長野局松本署松 本事業区1林班 い小班(東筑摩 郡麻績村猿ヶ馬 場官行造林地)		カラマツ 2~4年	面積 20.57 ha 本数 250本	5.28	西条担当区 湯川 啓造	主根及び幹足部を被害されて いる。ラテミン剤により防除 を行う。
--	--	--------------	------------------------------	------	----------------	--

## ○ ノウサギ

北海道 旭川局深川署深 川事業区 208~ 211林班(雨竜 郡北竜村)	中	カラマツ 2年	面積 8.3 ha 本数 20,750本	4.10	局	造林地全域に亘つて植栽木の 先端5cm位を被害されている。
旭川局深川署深 川事業区 273, 298~299林班 (雨竜郡雨竜村)		カラマツ 2年	面積 6 ha 本数 2,700本	4.10	局	峯通りの歩道から中腹に向つ て植栽木の先端5~8cmを食 害されている。
旭川局深川署深 川事業区71林班 い小班(旭川市 神居町西丘)		カラマツ 2年	面積 5.5 ha 本数 8,000本	4.25	局	凹状の緩斜面で周囲はマカン バ、ダケカンバ等の山火再生 林である。全域に亘つて先端 5cm位を被害されている。
岩手 下閉伊郡岩泉町 大字斐野		アカマツ 2年	面積 5 ha 本数 20,000本	4.15	県 円子 信幸	造林木を被害している。
福島 石城郡川前村大 字川前		アカマツ 1年	面積 2.5 ha 本数 8,000本	4.11	川前村 大川原 進	土砂流出保安林である。アカ マツの被害は初めてである。
神奈川 足柄上郡山北町 大字玄倉, 世附		ヒノキ 5年	面積 20 ha 本数 60,000本	5.10	足柄上地方事務所 宮田 英司	ヒノキの新植地であり生育良 好な県行造林地に発生。附近 民有林への影響大なり。防除 方法検討中。
京都 天田郡三和町		スギ ヒノキ 1年	面積 50 ha 本数 10,000本	5.1	三和町 川村 健	スギ、ヒノキの当年植栽の 30%の上部を被害している。 造林事業に対する影響大。防 除方法検討中。現在忌避剤を 使用している。
島根 島根県全域		スギ, ヒ ノキ, ア カマツ, クロマツ, カラマツ 1~5年	面積 522.22 ha 本数 1,042,440本	4.1	県 吉岡 技師	1月17日40年振り異常積雪に より被害が増大。特にアカマ ツ, スギについては樹幹の基 部をかみ切り改植を要するケ 所もある。

刊行物紹介

長野県緑化連盟 信山緑化情報 34年通巻第25号  
 出川 和市: カラマツの害虫とその防除  
 高知営林局 高知林友 6月号 1959  
 宮崎 守: 四国地方の野性哺乳動物について(II)  
 高知営林局 高知林友 7月号 1959  
 松沢 寛: 害虫学から見た荒廃瘠悪林地復旧対策事業  
 日本林業技術協会 林業技術 206号 4. 1959  
 高野福太郎: カラマツまき付苗の立枯病こぶ状変型に対する考察  
 森林資源総合対策協議会 グリン, エージ 7. 1959  
 前岡幹夫 外7名: おそろしい白蟻の被害

や、害虫防除費の予算単価の内容等をしゆんしやく、勘案して検討を続けている。

規格については、34年5月26日付34林野指第1849号、指導部長名で、林野庁で希望する規格に一応適合する、林業用BHC燻煙筒の製品として、  
 三光化学工業K.K. サンクリーン15  
 中外製薬K.K. バルサンポンプ  
 那須物産開発K.K. キルモス  
 富士化成業K.K. ジェット富士  
 北興化学工業K.K. フォツグA  
 八洲化学工業K.K. モスキーール

をあげて、各知事宛、各営林局宛に通知をした。  
 価格については、現行の申し合せ価格は改訂の必要があるのでは、目下その値引の限度について、検討を続けているが、決定次第関係方面に通知する方針であること。

(7) 事務局を千代田区六番町7、森林記念館内二階に移転したこと。電話(33)4214, 4215。国電、地下鉄とも四谷駅下車、都電四谷見附下車、徒歩3分。

雑 録

燻煙剤協会組織の強化

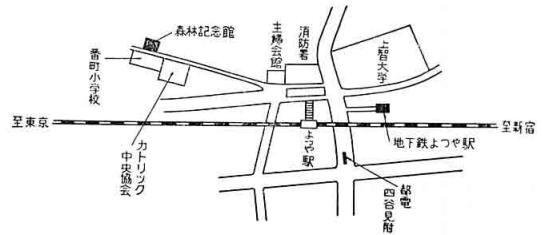
燻煙剤協会は、去る7月20日東京霞ヶ関化学工業会館において、林野庁伊藤研究普及課長、松山技官、中村技官、新村技官、国立林試今関部長、慶野技官臨席のもとに、臨時総会を開いて次の事項等を議決し、その組織内容の強化を行った。

今後燻煙剤の発展と普及を期待するには、全国各地からいろいろな情報を集めることが大切であり、今後皆様の御協力をえたい旨事務局から依頼があつた。

- (1) 会名を変更して燻煙剤協会としたこと。
- (2) 事務局を設け専従職員2名を設置したこと。
- (3) 参議院議員石谷憲男先生(前林野庁長官)を顧問として推たいしたこと。
- (4) 役員が次のように改選されたこと。

理 事 長 三光化学  
 理 事 三光化学, 三共, 中外製薬, 八洲化学, 富士化成業  
 常 任 理 事 富士化成業, 中外製薬  
 監 事 北興化学  
 技術委員長 富士化成業, 同副 八洲化学  
 普及委員長 三共, 同副 中外製薬

- (5) 林野庁研究普及課、新村企画官が事務局の指導に当ることとなつたこと。
- (6) 昭和32年6月1日付32林野第7295号で、林野庁長官から各都道府県知事、各営林局長に通牒が發送され、林野関係の害虫防除事業に燻煙剤使用が公認されたことは已に御承知の通りだが、このような段階に対処するためには当然規格や価格の問題が検討されねばならないので、協会は、林野庁の意向



野鼠被害各地に現れる

本誌 No. 85号で北海道の野鼠の大発生を警告しておきましたが、今年は野鼠の当り年と見えて、その後の被害は北海道だけにとどまらず、青森、群馬、山梨、静岡等本州各地に異常発生をみている。その防除対策について林野庁は予算措置として、予備費要求を準備しているが、詳細は次号に掲載する。(編集委員)

お 願 い

森林防疫ニュースは益々隆盛の一途をたどつて行くのは編集担当者としても真に喜びにたえない次第であります。その中にありまして読者諸氏による本誌への御投稿も随分ありますが、その送付先が色々のため玉稿が散逸するおそれがございますので、今後は研究普及課松山技官又は造林保護課有馬技官あて御送付下さいませようお願いいたします。(編集委員)

編集後記: 本号表紙記載の図は情報欄の一覧図をとりました。情報はたつぷり8頁になり、被害報告はどしどし送られて来て、その整理に嬉しい悲鳴をあげています。今後も被害発生を見たらすぐ被害報告を寄せて戴くよう心掛けて下さい。(編集委員)